

## 第 2 回首里杜地区整備基本計画検討委員会 議事録概要版

## ■主な委員意見と対応方針

No.	指摘箇所	意見要旨	対応方針
1	1 章 1 節	<ul style="list-style-type: none"> <li>首里杜地区だけでなく、元の首里杜構想であった「歴史的風土保全地区」もきちんと位置づけるべき。</li> <li>新・首里杜構想だけではなく、元の首里杜構想の考え方について整理すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首里杜構想の内容を整理した。(1 章 1 節)</li> </ul>
2	2 章 1 節 特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>「文教の都市」は戦後ではなく近代以降の特徴として再定義を。</li> <li>琉球文化に起因するものでも戦後の復興を象徴する資源や、生活と密接にかかわっている資源なども追加したほうがよい。</li> <li>中山門や綾門大道の意義についてしっかり位置づけてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指摘通り修正した。(2 章 1 節)</li> </ul>
3	2 章 1 節 将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来像の「持続可能な首里杜地区」という表現は、もっと分かりやすい表現にしたほうがよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3案を示した。(2 章 1 節)</li> </ul>
4	3 章 1 節 交通関係表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スクールゾーンにおける安全対策」という表現は、「ゾーン 30 プラス」など新しい施策に即した表現を。</li> <li>「交通環境最適化」は、何をもちて最適とするかということが難しい。「継続的改善」のような表現が適切ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指摘通り修正した。(3 章 1 節)</li> </ul>
5	3 章 4 節 パッケージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の 3 つのパッケージとは別に、首里染織館 suikara 周辺のエリアを位置づけてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「首里城公園アクセス向上パッケージ」の範囲を見直し、suikara や伊江殿内庭園などはその延長と位置付けた。(3 章 5 節)</li> </ul>
6	4 章 1 節 協議会の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>議論だけで終わらず、計画やまちづくりのローカルルールに反映されるよう、協議会の根拠づけが必要だ。そのためにも行政が関わっているという下支えが必要で、那覇市が本計画に参加することは必須。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新・首里杜構想の実現に向け、首里杜地区整備基本計画に那覇市関連事業を記載し、沖縄県や地域団体等と連携しながら当該事業に取り組んでいく。(那覇市回答)</li> </ul>

No.	指摘箇所	意見要旨	対応方針
7	4章1節 協議会の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学術機関・専門家は、個人で参加するイメージではなく、団体として活動・支援できる仕組みが必要だ。また、文章にも「支援」という言葉を入れてほしい。</li> <li>• アーバンデザインセンターの主役は住民であり、「議論」し、「活動」する場である。地域住民が主役として責任もってまちづくりに取り組み、それを行政が徹底的にバックアップするという考え方のアーバンデザインセンターである。</li> <li>• 実際に事業を起こす際には、事務局はどこが行うのか、資金・補助金の運営管理はどこが担当するのか等、棲み分け・役割分担が重要になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「支援」については指摘どおり修正した。</li> <li>• 協議会において、住民や学術機関などを含めた推進体制や参画の仕組みについて検討することとする。</li> <li>• 事務局体制については、県首里城復興課が事務局本部を務め、那覇市事務局として那覇市都市計画課を、地域事務局として首里社会議を位置づけた。 (4章1節)</li> </ul>
8	〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 協議会の部会は、暮らしや社会を議論する会が抜けている。本計画の中である程度定めるのではないならば、例示は削除してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 例示を削除した。(4章1節)</li> </ul>
9	住民の関わり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域住民の「協力」や「責任」という言葉の記載があるべきだ。取り組みの一部やモニタリングなどでも住民の協力によって可能となる取り組みがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2章3節基本方針(3)①交通環境改善、第4章モニタリングについては、地域住民の積極的な関わりが重要である旨を追記した。(2章3節、4章2節)</li> </ul>
10	4章1節 那覇市の関わり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 沖縄県や地域のみでの取り組みだけでは、上手く回らない事業が数多くあるので、那覇市も事業主体や事務局へ参加し、積極的に取り組んでほしい。</li> <li>• 今の意見は、地域からの意見だけでなく、委員会からの意見としてとらえてほしい。</li> <li>• 那覇市には既存の協働の枠組みがあり、この協働の枠組みと、本計画を推進する協議会がどう連携するかを考えるべきだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新・首里杜構想の実現に向け、首里杜地区整備基本計画に那覇市関連事業を記載し、沖縄県や地域団体等と連携しながら当該事業に取り組んでいく。(那覇市回答)</li> </ul>

No.	指摘箇所	意見要旨	対応方針
11	ロードマップ・取 り組み一覧 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本計画のために新規で位置づけた取 り組みが一目でわかるよう色分けして ほしい。</li> <li>• 歴まち法を活用できそうな事業を色 分けしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新規の取り組みがわかるように修正 する。(3章4節)</li> <li>• 歴まち法については現時点での想 定が難しいため、色分けではなく参 考資料として提示する。</li> </ul>
12	ロードマップ・取 り組み一覧 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 水との関係性について、特徴としての 位置づけだけでなく、今後の活用方 針を示すべきである。産水や正月の 若水などのように民俗的な結びつきを 再び生み出すことが必要。</li> <li>• 上記は水資源だけではなく、他の歴 史文化資源についても、もう少し踏み 込んで方向性を示してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2章1節首里杜地区の特徴におい て、井泉とかつての生活の関係につ いて再整理(必要に応じて、その他 の資源もかつての生活との結びつき を再整理)</li> <li>• 2章2節の課題や、3節基本方針 (2)①においては、住民との協働に より、かつての生活との結びつきを含 めて再評価し、将来的にどう生かし ていくかを調査研究する取り組みを 位置づけ。</li> </ul>
13	〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デマンドバス・循環バス・シャトルバス・ パークアンドライド等の施策は実現が 難しいのでは。バス会社は赤字であ り、バス1台あたりの労働生産性を向 上させることが大切で、住民に乗っ てもらえる路線でなくてはいけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デマンドバス・循環バス・シャトルバ ス・パークアンドライド等の施策につ いて、いきなり路線設定は難しいた め、まずは社会実験の取り組みを優 先。</li> <li>• なお、当該社会実験においては、地 域6団体等と企画から周知、実施に 至るまで協働により行い、首里杜地 区住民や来訪者が大規模にかつ主 体的に参画する社会実験として位 置づけするとともに、将来的には住 民・観光客が乗ってもらえる路線を 生み出すような取り組みとして位 置づけするものとする。</li> </ul>
14	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 計画を推進する上でイメージがあると 取り組みやすい。どのように整備を進 めていくのか、どのように変化してほ しいのか、それが伝わるようなイメー ジスケッチなどを入れてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 将来のイメージスケッチを作成す る。</li> </ul>